

JADECOM全ての施設に NDCの力を届けたい！

地域医療振興協会NP・NDC研修センター 鈴木靖子

看護師の特定行為研修制度施行と共にスタートしたNDC研修センターも、7期生の修了を目前にしております。JADECOM内には17施設に37名の特定ケア看護師(Nursing Designated Care: NDC)が活躍しており、さらに5名の仲間が増えることとなります。今回7期生では、新たな2つの施設にもNDCが誕生する予定です。

働き方改革でも診療報酬改定でも、検討の場では『特定行為』という言葉が高頻度で登場するようになりました。また育成機関である指定研修機関連絡会は、厚生労働省の後押しを受け、法人化へと舵を切ったところです。今後、間違いなく拡大していく事業です。多くの医療および福祉に係る場で、特定行為研修修了者の活躍が期待されています。

全国で約5,000名の特定行為研修修了者が誕生していますが、上手く活動できているのはまだまだ半数だと聞きます。研修を修了しても、過去1年間に一度も特定行為に携わったことがないと答える修了者も3割に上るというデータもあるそうです。

思えばNDCも、最初は文字通り「海のものとも山のものとも分からない」まま、手探り状態でした。1期生2期生では、当研修センターの指導診療看護師である筑井菜々子が、研修修了前後に、もしくは臨床研修中にNDC修了生の所属施設に赴き、実働しながらその施設でのニーズやNDC活用の可能性を一緒に探り、手本を見せて、修了生本人と共にNDCの働き方を構築していきました。NDCとして働く上でのマインドも示してくれました。これは修了生本人にとって

も、受け入れる所属施設にとっても、大きな『経験』となりました。これがNDCの成功要因だったと思っています。手探り状態の中でもこの『経験』が得られたのは、とても幸運なことでした。どこの指定研修機関でも、修了者の所属施設でも、この『経験』は必要であるのに対応が難しい部分です。またどこの指定研修機関でも同じように教育できているかという点、そのレベルや質はさまざまです。NDC研修に携わってきた者として、当研修センターの教育の質の高さ、これは私の自慢です！研修生を送り出さされた施設からも「期待以上の教育」、そして本人の努力の賜ですが「期待以上の仕上がり」と言ってもらえます。指導者筑井を育ててくれたのも、JADECOMの地域医療です。NDC研修では、地域の医療、福祉に熱い先生方やスタッフの皆さまから、多くのチャンスをいただき、多くのことをご教授いただきました。JADECOMだからこそできたこと、正にJADECOMが育てた人財たちです。ぜひこのJADECOMの人財を、JADECOM全ての施設に『経験』していただきたいと思います。そしてJADECOMの力を確認していただきたいと思います。

今ではNDCの活躍は所属施設のみならず、多くの方に認めていただけるようになりました。活動する施設で「無くてはならない存在」と評価していただいたり、医師派遣がままならない時には、その代わりとしてNDCを要請していただきたりするようにもなりました。100%上手く活躍できているとは言えないかもしれませんが、それぞれのNDCたちが成長しつつ、活動範



圏を開拓してくれています。特定行為を必要とせずすみ病態の管理やタイムリーな介入で、どれだけの予期せぬ急変を減らし多くの患者さんやご家族を救えたか、医師・看護師をはじめとする多くの医療スタッフの負担やジレンマに対応してきたか、何より医療安全の向上も然り、医療および福祉の質の向上と充実に大きな貢献をしてくれていると思います。

JADECOMでは「医療という安心を、全ての地域の方々にお届けしたい」という信念の下、地域医療に携わっています。多忙な医師を待たなければならない患者さんを目の前にする看護師のジレンマ、これがNDC研修受講動機の上位です。医師の代わりにはなれなくても、看護師としての経験や視点が診療プロセスに加えられ…NDCだからこそその役割がある、少しでも患者さんを待たせずに苦痛や不安に対応したい、「看る」と「診る」を併せ持つ看護の可能性、このマインドと力を全ての地域の皆さまに届けたいと思います。

とはいえ、今NDCの活動を『経験』していただけているのは、NDCの育成を決断して下さった施設、実習や研修でお世話になった施設に限られています。次の候補者の育成を、または派遣の要請をと考えていただけるのも、まだまだ数少ないNDCの活動を『経験』してくださっている施設に留まっている現状があります。今は派遣の要請をいただかない限り、実際にNDCの活動を『経験』していただくことはできません。しかし派遣には費用がかかります。この費用の価値があるということをご理解いただかないと、

その『経験』に辿り着くことができません。本当にもったいないことだと思います。

今年度は久しぶりに開催されたJADECOM学術大会のシンポジウム『特定ケア看護師の挑戦』で、診療所や老健、地域の病院、麻酔科でのNDCの活動報告を行いました。「分かりやすかった」「イメージが湧いた」「より興味が持てた」等の感想をいただきましたが、どのくらいの情報が伝わったのでしょうか。「百聞は一見に如かず」。ひと月を単位としてNDCを送り実際の活動を『経験』していただく、「お試しNDC」という企画を考えているところです。派遣の要請や派遣費用のご負担なく、まずはNDCの活動を『経験』していただければと思います。

それには予算の獲得、対応できるNDCの調整が必要です。まだまだNDCが潤沢とは言えません。所属施設で必要とご判断、育成していただいている状況では、そこからNDCを出していただきとお願いできる段階には至っておりません。また全てのNDCが対応できるかということ、そこにも豊富な『経験』が必要です。課題はありますが、きっと実現させたいと考えております。

特定ケア看護師の挑戦は、まだ始まったばかり！これからの地域医療の未来のために、一人でも多くの看護職がNDCを目指しJADECOMの人財となり、一人でも多くの患者さんや利用者さん、そしてご家族の方々へ、NDCの力を届けられたらと思います。そのためにまずはJADECOM全ての施設に、NDCの活動を『経験』してほしい、心からそう願っています。